

とまどいつつ

早川満寿子

母親が子供の為に、と願う思いはいつでもどこでも同じようでありながら、現実に現れて来る諸問題は種々様々であり、一つの出来事をどう受け止め、どう解決して行くかは、母親によって皆異なるものです。時には今の母親は、と、批判の一言も叫んだりしてしまいます。しかし、私もその目を自分自身に向けてみれば一言の文句も言えない愚かな母親の一人なのです。けれど、ある面から見れば駄目なことも充分わきまえて、母親は皆子供を必死に育て、一生懸命に生きて

いる事実を認めなければなりませんし、案外楽しみながら支え合つての業に励んでいることも確かなのです。百人寄れば百通りの家庭があり、百通りの育て方があります。母親もそれぞれの歴史を背負って生きているわけですから、そう簡単には是非々を言つてはならないし、言えるものでもありません。

最近、私は子供達を通して母親と接していますと、各自がかなりの個性をもつて子供を育て、その子に寄せる願望の強さを持っているのだと言うことを強く感

じます。涙ながらに相談に見える人さえも、しっかりと握りしめて離すことの出来ないその人なりの絶対なものがあつて、なかなかそれを手放して自由に、前へ進むことが出来ないのだと思います。

すでに小学生になつてゐる女の子です。が、入園当初からエレクトーンや水泳を習い、家庭では〇〇クラブと言う所から定期的にレコード等も送られて来たりして、歌や音楽などよく知っていました。何事もよく出来るし、記憶力も良く、創造力、思考力もかなり優れていました。

しかし、何でも知っている、何でも出来ると言う自信からか、園での彼女はかなり乱暴な言葉を使い、その行動は子供らしさを失わせていました。母親に、家庭での生活を尋ねてみますと、別に変った面も見られず、水泳も喜んでやっている、と自信をもって言い切ります。

母親から見ても、子供は喜んで張り切っている”と思えている間は、幼稚園の生活のことは何を言っても信じられないものらしく、園ではそのまま、他の子供達に迷惑にならない限りは、自由に伸々させる様に努力しました。ところがつい最近、“水泳の級が進むにつれて、指導者からも期待を寄せられ、本人も疲れてしまつて、とうとう水泳を止めました”とのこと。あんなに張り切つて自信をもつてやらせていた水泳を止める迄には、お母様としても、随分苦しんだに違いないし、子供の出方を見ながら、色々なとま

どいを経験したことと思います。

その後、自転車に乗つて走り廻っている彼女に会つたのですが、さばさばとして、すずしい笑顔が何故かしら私にはとてもうれしく感じました。右の様に、はっきりとした形には現われなくても、子供の心と、親の期待に満ちた心とは、かなりの距離があります。ある程度は仕方がないとしても、子供はその渦の中で、うろろうろしてしまふでしょう。しかし、親というものは、特に母親は子供に

より近くあるためか、こうあつて欲しいという先走つたイメージを、かなり強く子供に押しつけている事は否定出来ないようです。ですから、子供の心や、子供を見る目など、そして子供の為に母親が、どうあらねばならないか等を、保育に携わる者としては、繰返し言い続けなければいけませんけれど、それぞれの母親が、子供との関係に於いて、そのこと

に気付かされるには、“時”があるように思います。だから尚のこと、この幼児期と言う“時”に、保育の原点を解ってもらいたいと願いつつ、子供達と共に過しているわけです。そしてそれと同時に、親御さん達の日々のとまどいや、葛藤を理解した上でないと、教師もどんなに偉そうなことが言えたとしても、後になつて一人芝居をしていた様な、むなしさを味うのみで終つてしまふのではないでしょうか。

保育者である私も家庭の生活の中で、自分の子供が、すつと前を横切る時には、教師であるよりも、本当に愚かな母親になつていふことに、しばしば気づかされるのです。

育ての業、教育の仕事と言うものは、とまどいそのもののように感じられて仕方がない近頃です。

(神奈川・翠ヶ丘幼稚園)